

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701228		
法人名	社会福祉法人吉幸会		
事業所名	グループホームみろくの郷けんど		
所在地	〒039-0313 青森県三戸郡田子町茂市字仲田2-2		
自己評価作成日	平成25年9月10日	評価結果市町村受理日	平成26年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日、ゆっくり、ゆったりとした時間と空間を提供し、家に居るような感覚で自分のやりたい事をして過ごしていただいている。また、此処が家となるように、自治会に入り、一地域の住民として、地域の行事や清掃作業等にも参加している。</p> <p>～基本理念～</p> <p>①同じ家に住む仲間っこになろうよ。 ②自分の人生を最後まで満喫しようよ。</p> <p>それを念頭に置き、日々のケアに努めている。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成25年10月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者のほとんどが地域住民であったこともあり、開設当初から、自然体で、地域に密着したホームとしての運営が行われており、利用者も職員も地域住民も、共に「仲間っこになろうよ」という思いを込めて、理念を作り上げている。</p> <p>自治会に加わり、お祭りのない地域で唯一、「みろくの郷 夏祭り」が大きなお祭り行事に発展しており、自治会や民生委員が運営推進委員として加わり、夏祭りの花火大会は自治会の寄付によって盛大に行われている。また、地域住民による無断外出時の協力の他、ホームは自営消防団や避難場所を提供してくれる事業所等の協力で支えられている。</p> <p>職員は利用者の“心の声”を引き出そうと、チャレンジ目標を立て、利用者一人ひとりの声を書いたためて掲示しており、目にする度にその思いを共有し、日々ケア場面に活かそうと前向きに取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスを理解し、「同じ家に住む仲間っこになろうよ」「自分の人生を最後まで満喫しようよ」という理念を掲げている。会議等で理念を確認している他、ホーム内に掲示し、全職員に周知している。また、理念の意味を意識しながら、日々のサービス提供に努めている。	利用者のほとんどが地区周辺の住民であったことを重視し、職員共々、地域の「仲間っこ」になろうという姿勢を盛り込み、ホーム独自の理念を掲げている。理念は職員が話し合いながら作成し、ホーム内にも掲示され、共有化が図られている他、理念の実現に向けて具体的な取り組みがなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事に参加したり、保育園等からの訪問もあり、積極的な交流が図られている。また、当事業所の祭りの際には地域住民の協力があり、準備から参加していただいている。	自治会総会や地域活動にも積極的に参加・協力し、「みろくの郷夏祭り」は周辺住民の恒例行事に発展している。小学校の運動会への招待や保育園児の訪問の他、夏祭りには高校生ボランティアの協力も得られている。また、自治会からは「介護保険の仕組みを知りたい。」「体験入所や見学をしてみたい。」等の希望が出され、更なる交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生やボランティアを受け入れている。当地での祭りでは、地域住民や高校生のボランティアに協力していただき、ふれあいの機会を設け、交流の中からグループホームや認知症への理解が深まるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着サービスの役割と会議の意義について説明を行い、ホームの事業や外部評価結果等も報告している。グループホームからの議題ばかりではなく、出席者からも提案をいただき、出された意見は法人や事業所の会議で話し合い、サービスの向上につなげている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており、自治会長や民生委員、家族代表等が委員となり、それぞれに役割の認識がなされている。会議では、地域の祭りに発展しているホームの夏祭りで、寄付金での花火打ち上げの助言をいただき、実現している他、利用者の徘徊時や災害時の協力要請の場となったりと、有効な交流の機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	外部評価結果を報告し、ホームの実態を理解してもらうように努めている。必要に応じて、指導や助言を受ける等、意見交換を行っている。	運営推進会議に参加を得ている他、地域包括支援センターの保健師が利用者の身元引受人として関わるケースもあり、実践的な連携がなされている。自己及び外部評価結果や目標達成計画を提出している他、ホーム便りは町担当課以外にも郵便局や駐在所、保育園、学校等にも配布しており、ホームの様子を知っていただくように働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、自由に入出りができるようにしている。外出傾向が察知できるように見守りを行い、察知した場合には付き添う等の支援を行っている。また、外部・内部研修で身体拘束の内容や弊害について理解し、日々、身体拘束をしない姿勢で支援をしている。やむを得ず身体拘束を行わなければならない場合に備えてマニュアルがあり、家族に説明し、同意を得る体制を整えている。	毎年、外部研修を受講し、新しい情報を内部勉強会の場で共有しており、認識を新たにしながら身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。玄関や非常口は施錠せず、外出傾向のある利用者は見守りながら、一緒に周辺を散歩して思いを分かち合い、自治会活動や運営推進会議を通じて、周辺住民の理解と協力も得られている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合の家族等への説明や同意の取り付け、経過観察記録等の体制も整っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修に参加し、高齢者虐待防止法について理解し、職員同士がお互いに気になることを注意しながら、未然に防ぐように努めている。虐待を発見した場合の対応についてマニュアルを整備し、報告の流れ、対応方法についても全職員が理解できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が外部・内部研修に参加し、制度について勉強をしている。詳しい内容は誰でも見れるように掲示し、利用者や家族に情報提供をできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書を基に、ホームの理念や運営方針等を十分に説明している。利用者や家族の意向を傾聴するように心がけ、疑問や意見も引き出せるよう働きかけている。契約改定時は十分に説明を行い、退居の際には不安を生じさせないよう居宅介護支援センター等を紹介したり、入院等、個々に合わせた支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置する等、利用者や家族が意見や要望を出しやすいように働きかけている。面会時には家族と話す時間を持ち、家族や利用者による不満や要望等がないか常に確認し、出された意見については全職員に周知し、話し合っている。	利用者毎の満足度を職員が聞き取り、その情報をユニット会議で共有し、日々のケア場面で活かしている。家族の面会時には、ホームでの暮らしの様子を伝えたり、雑談を交えながら、意見や苦情を引き出せるように心がけている。また、収穫祭と昼食会を兼ねた家族会を企画し、更に親交を深めようと意欲的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方法や利用者の受け入れ等の決定事項については、会議を経て、主任から周知をしている。職員の意見はその都度話すようにしている。また、ユニット会議、リーダー会議、全棟会議、主任会議、法人全体会議を行っており、意見や提案を出し合い、反映させている。	法人の会議や主任会議の情報はユニット会議で逐一全職員に伝達され、ユニット会議で提案された職員の意見は、管理者や主任を通じて、法人の会議に上申される体制を整えている。また、年2回、職員との個人面談を行い、利用者への影響に配慮した勤務体制が採られており、利用者との馴染みの関係を考慮して異動が検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、現場の状況や職員の日々の努力、勤務状況を把握し、保有資格者を活かした職員配置の他、年2回、人事考課を運営者や主任等と話し、職員一人ひとりが課題を持って働けるようにしている。また、資格取得についてもアドバイスをしたり、法人内の研修委員会による勉強会を行い、向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の質の向上に努め、法人内の研修委員会と共に、年間研修計画を立て、職員それぞれの経験や力量、希望等に応じた内部・外部研修を、全職員が満遍なく受ける機会を確保している。研修で学んだ事は会議等で伝達研修し、日々のケアに活かせるように周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八戸地区グループホーム協会に加入し、ネットワークづくりや意見交換を行っている。研修会への参加をネットワークづくりや意見交換の場としても認識しており、職員を参加させている。法人内外のグループホームとも連携をとり、日々のサービス向上や職員の育成に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者、家族、担当ケアマネ等から直接話を聞き、できるだけ本人の希望や思いに沿うように努力をしており、信頼関係を築けるように意識しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族より困っている事やサービスに対する要望等を細かく聞き、希望や思いに沿うように努力し、信頼関係を築けるように意識しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族のニーズに対して、その時点で必要な事柄を見極め、必要に応じて地域包括支援センター等の関係機関と連携を図り、他のサービス機関に移行する支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は理念を意識し、一人ひとりのできる事、できない事を理解しながら、本人の思いを再確認するために、日々、気づきができるように努めており、利用者の言葉や思いを文章にし、掲示している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の関係や双方の思いを把握し、面会時には利用者の心身の状態を伝え、情報の共有に努めながら、家族との触れ合いを大切にしており、意見等を職員に言いづらい環境とならないように心がけている。面会に来られない家族とも電話で連絡し、祭り等、外で会う機会をつくる等、支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの人が面会に来てくれている。職員はコミュニケーションを図りながら、利用者とこれまでに関わってきた人や馴染みの場所を把握しており、利用者の生活歴も考慮の上、希望に応じて出かけられるように支援し、関係が途切れないようにしている。	地域の知り合いの訪問を受け入れたり、帰宅願望の強い利用者を自宅近くの畑までドライブに誘う等している他、家族と電話のやりとりができるよう支援したり、毎年、年賀状を職員と共に書き上げ、送っている。また、地域の公民館の文化祭に、編み物や布ぞうり等の利用者の作品を展示して、継続的な交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は「同じ家に住む仲間っこになろうよ」という理念を意識し、利用者同士がお互いのことをよりわかり合えるよう、職員も間に入り、コミュニケーションを図っている。また、利用者同士ができる事、できない事をお互いに助け合い、職員は見守り、利用者同士が関わり合えるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	買い物や通院時等、事業所の外で会うことも多く、その際に近況を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から、思いや希望を把握するように努めている。アセスメントシートや家族等から情報を収集して、職員間で情報の共有を図り、ユニット会議や、必要に応じて話し合いを持つ等、全職員が利用者の視点に立って意向を把握するように努めている。	日々のケア場面で利用者一人ひとりとのコミュニケーションを深めながら、上手く伝えられない思いや希望、意向等を探り当て、把握に努めている。また、利用者の様々な言葉を聞き取り、心の声・言葉として職員と共に書にしたため、掲示し、常に目に入るようにしており、利用者の思いを共有しようと、工夫しながら取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、担当ケアマネージャー等から情報収集を行い、把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや会議等で、利用者の現状を把握している。一日の暮らし方、生活のリズム、分かる力等に関して詳しく情報交換し、話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族等の意向を聞き、利用者がその人らしく暮らし続けることができるように、担当者を中心に全職員で話し合い、介護計画を作成している。	利用者の声を直接聞き、家族の思いを引き出しながら、利用者の本当の思いを目標に掲げた計画書の作成を目指している。また、全職員の意見をまとめて介護計画を作成しており、「たまには家に帰りたい」等の利用者の切望を目標にし、家族ぐるみで取り組む等、個性あふれるものとなっている。実施期間は6ヶ月と明示し、状態変化に応じた見直しも随時行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりについて、日々の暮らしの様子や身体状況を具体的に記録に残しており、記録の内容を全職員が共有できる仕組みを整え、毎月評価をし、利用者の身体状況や希望等の変化があった場合には、随時見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の希望を聞き、法人の車両を使用して、受診時の送迎や外出を日常的に支援している。「自宅の様子が気になる」等の話があれば、自宅や自宅周辺の様子を見に行くドライブを企画して出かける等、柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、本人の意向や必要性に応じて、地域の自治会、小学校、保育園、警察、消防、医療等に協力していただき、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでの受診状況を把握し、利用者や家族が希望する医療機関への受診や、協力医療機関の往診があり、定期的な受診・往診の他、体調の変化や心配事等がある時は、いつでも医療機関に相談したり、受診している。通院方法や受診・往診結果についても報告し、必要時には話し合いを行う等、家族等の納得が得られている。	入居前からの受療歴により、利用者・家族の希望に沿ったかかりつけ医への受診が継続されており、地域の診療所医師による月1回の往診と、週1回の訪問看護師による健康管理が行われている。また、その他にも歯科、眼科等の専門医の受診を支援し、お便りでの報告や電話での連絡により、家族との共有化が図られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制として訪問看護師が週1回訪問し、利用者の日常的な健康管理や体調の変化、心配事等について相談し、指示や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に病院に電話したり、見舞いに行くことで、治療内容・経過等を把握するように努めている。また、家族と一緒にカンファレンスを受け、退院等の調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化がある時は家族と相談の上、かかりつけ医や訪問看護師との連携を図り、早めの受診や必要に応じて入院や治療を行い、重症化しないような対応に取り組んでいる。今まで、終末期を迎えた利用者はいないが、法人として看取りに関する指針を定め、医療機関とのより密接な連携を図るために、町内の訪問看護ステーションとの医療連携をしている。	これまでに看取りの経験はなく、点滴や吸引、経管栄養等の医療処置が必要になった場合には、かかりつけ医や訪問看護師による医療連携により、入院や法人施設入所を視野に入れた支援が行われる他、昨年度、看取りに関する指針を作成し、利用者毎に家族への説明と意向の確認が行われている。また、終末期の対応に向けて、体制づくりを行っているところである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救命救急等の内部・外部研修を受け、内容を全職員に周知し、事故発生時や緊急時に備えている。夜間対応も含め、緊急時対応マニュアルを掲示し、全職員に配布している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	いつでも適切な対応ができるように、毎月、避難訓練を行っている。年2回、消防署へ依頼して消防訓練を行い、総評してもらい、今後に役立てている。また、地域の方からも協力を得られるようお願いしている他、災害時に備えた備品や非常食を準備している。	年2回、消防署立ち会いの避難訓練と、毎月の夜間を想定した自主訓練が実施されている。数軒先に自営消防団の屯所があり、運営推進会議を通じて地域住民へ協力を呼びかけている他、近隣の企業にも協力をお願いし、了承を得ている。また、災害時の備品として、缶詰等の食料品や飲み水、ストーブやガスボンベ等が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重し、常識且つ適切な声かけをしながら、利用者に寄り添い、同調姿勢で接している。会議等でも利用者の接し方について話し合いを行っている。また、個人情報とは適切な場所に保管している。	利用者の話にゆっくり耳を傾けて同調し、思いを共有する姿勢で接するように努めている。方言を使いながらも、親しくなりすぎて遠慮がなくならないよう、気配りを怠らず、ケアに取り組んでいる。また、ボランティア等の訪問者への守秘義務の説明や、個人情報に配慮する気配りも欠かさないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日々の関わりや家族等からの情報により、思いや希望を把握している。利用者が自己決定できるような対応や話やすい雰囲気づくりを心がけ、意思表示が困難な場合でも、表情や態度から把握するように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気分や体調に配慮し、一人ひとりのペースや要望に沿った支援ができるように努めており、生活していく中で決められた時間や場所、順番等にとらわれないように心がけ、利用者に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性や希望等を尊重し、季節の衣類の入れ替えは家族にも協力していただきながら、おしゃれができるように支援しており、衣類や整容の乱れにはさりげなくサポートしている。理・美容は希望する店に行ったり、ホーム内に来てもらう等の体制を整え、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望、好み、苦手なものに配慮し、状況、意思、力量に応じて調理の準備や後片付け等を職員と一緒にしている。職員も同じテーブルで食事をとり、会話を楽しみながら食事時間を過ごしている。また、月2回は利用者の希望に沿った自由献立の日があり、食事の楽しみを持ってもらう機会を設けている。	利用者の嗜好を把握し、苦手なものには代替品を提供する等の配慮をしながら、菜園で採れた旬の素材を使ったり、食事を職員も共にして、楽しい食卓を囲んでいる。月に2回の自由献立の日には利用者の意見を取り入れて、皆で調理し、利用者も下ごしらえや盛り付け、片付けや茶碗拭き等に精を出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の栄養士に、栄養等のバランスを考慮の上、旬の食材を使った季節メニューや好物を取り入れた献立を立てていただいている。月1回の給食会議では栄養士と意見交換を行ったり、毎月、利用者の状況の変化や体重を伝え、指示や助言をいただく等、栄養士との連携を図りながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの習慣や意向を踏まえ、声かけや一緒に行う等、能力に応じた支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄を記録し、排泄パターン、習慣、サインに応じて事前誘導を行う等、自立に向けて支援を行っている。便意や尿意の確認、誘導、失敗をした時等は、羞恥心やプライバシーに配慮し、他利用者に気づかれぬよう速やかに行っている。	利用者毎の毎日のきめ細かな排泄チェック表が土台となり、個々の排泄パターンに沿った誘導やケアが適切に行われている。オムツ使用の継続か否かについて頻回に話し合い、見直しをしており、ほとんどの利用者が事前誘導によるケアで、問題なく過ごされている。また、直接的な声かけではなく、利用者毎に声かけを工夫し、排泄を意識しない誘導を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事や水分量、排泄チェックを行い、水分を摂取しやすいように工夫したり、運動を働きかけている。便秘傾向にある方や下剤服用者については医療機関へ相談し、指示を受け、下剤の使用量や頻度を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者のその日の体調や気分を考慮し、入浴習慣を把握した上で、その人の希望やタイミングに合わせて入浴できるようにしている。利用者の羞恥心や負担感、安全面に配慮し、入浴拒否する利用者へは声かけのタイミングを考える等、対応の工夫をしながら行っている。	毎日、入浴の準備を行い、週2～3回の入浴が提供されており、入浴を面倒がる利用者にはその都度、臨機応変に誘導を工夫しながら支援している。また、入浴しない時には足浴を提供し、コミュニケーションを図る機会として捉えており、入浴も負担のない楽しみなものになるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな場所で休める環境を整え、外出や面会、その日の状態に応じて、柔軟に休息ができるように支援している。入居前から眠剤を服用している方もおり、睡眠状態等の観察をして、家族や医療機関と相談しながら、薬を調整し、生活リズムを整えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬の内容を把握できるように取り組み、薬の変更時には家族に報告の上、状態を観察し、症状の変化を記録に残して、医療機関や家族に報告・相談している。また、誤薬や飲み忘れ防止への取り組みも行っており、体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴・力量・希望等を把握し、体調や気分、季節等も考慮しながら、一人ひとりが家事や畑仕事等、得意な事やできる事で役割を持って生活している。季節毎の行事や本人のしたい事を取り入れながら、気分転換を図れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のその日の心身の状態を把握し、本人の希望や生活歴等からの習慣を取り入れながら、買い物や山菜を取りに行く等、日常的に外出の機会をつくるように努めている。また、地域行事への参加等、地域の方の協力を得ている他、家族にも付き添いやお小遣い等の協力を得ながら出かけられるように支援を行っている。	日頃の利用者との会話から、行きたい場所や見てみたい場所を情報収集し、実現に取り組んでいる他、季節を感じたり、地域の行事に参加する喜びを実感していただくために、毎月の行事計画に盛り込んでいる。また、受診時に寄り道をして、利用者の希望する買い物に付き合う支援も行われており、自宅近くの茸採りを楽しみにしている利用者もいる他、地域の敬老会には家族に付き添いの協力を呼びかけ、参加も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの力量や希望、家族の希望等に配慮しながら、本人が所持していたり、紛失やトラブルを考慮して全額預かっている利用者もいる。外出や欲しい物がある場合には、自由にお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はかけやす場所に設置し、自ら電話できる方にはかけてもらい、できない方には希望に応じて職員がかけ、話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏にはすだれを使う等、季節感を取り入れながら、空間内の日差しや温度調整を行っている。職員の声やテレビの音も適切にしている他、車椅子使用の方やそうでない方も、それぞれが動きやすいように考えて家具を配置し、居心地良く過ごせるよう心がけている。	窓やウッドデッキに通じるガラス戸から陽光が入り、ホーム内は明るく、必要に応じてカーテン等で調整している。畳の小上がりや所々に置かれたソファ等で、利用者はそれぞれに居心地良さそうに寛いでおり、窓からは周辺の山里の四季の風景が見渡せて、四季の移ろいを感じることができる。また、ホール内の温・湿度は日々、細やかにチェックされ、管理が行き届いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの過ごし方や過ごす場所を把握し、思い思いに過ごせるよう、座布団や枕、趣味の道具等を置いておく等、一人ひとりの居場所が確保され、穏やかに過ごせるような支援を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に購入するのではなく、なるべく自宅で使用していた物、馴染みの物をもってきていただくように働きかけている。基本的には利用者の好きなように居室を使用していただいているが、持ち込みが少ない利用者には意向を確認し、職員と一緒に居室づくりをしている。	利用者の状態に応じた居室の環境を整えようと、入居時より家族に働きかけている。利用者自身が居室で過ごす時間が少ないため、共用空間では利用者それぞれが居心地良く過ごせる環境を整えている他、利用者の症状も考慮して、整理整頓がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の安全や使いやすさを考慮し、全域に手すりや車椅子対応の洗面所を設置する等しており、車椅子で自走できる方や自分で歩ける方の動線も考えながら、家具を配置する等、暮らしやすいための工夫をしている。		